

コロナで困窮 学生を支援へ

県立大が基金創設

県立大は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で保
護者世帯が減収したり、自
身のアルバイト収入が減っ
たりしている学生の経済的
支援などを目的とした緊急

学生支援基金を創設した。個人や企業などから寄付を受け付けており、担当者は「支援を必要としている学生のために役立てたい」と話している。

基金は、生活が困窮する学生の経済的負担や遠隔授業の実施に伴う負担の軽減、安心して大学生活を送るために必要な感染防止対策などへの活用を想定。学

内に設けた新型コロナウイルス感染症防止対策会議で、配分先や使途を決定する。個人からの寄付は、県のふるさと納税に新設された「新型コロナウイルス学生支援事業」を通じて受け付ける。この事業は寄付先の大学を選べ、県立大など選んだ大学の新型コロナ関連の支援に充てられる。企業や団体は、県立大ホームページ（HP）の専用フォームから直接申し込む。

理事長と学長、副学長、理事の常勤役員五人は七月一
来年三月の月額給与の10
%に相当する計約三百万円
を寄付し、基金に充当する。
新型コロナウイルスに関する県立
大の学生支援として、県は
六月補正予算案で授業料を
減免する大学独自の制度創
設を打ち出している。年額
五十三万五千八百円の授業
料の四分の一を免除する。
国の就学支援新制度の対象
から外れ、奨学金の貸与を
受けている学生のうち、ア
ルバイト収入や仕送りなど
が二万円以上減った学生が
対象。二百人ほどを見込ん
でいる。ふるさと納税を活
用した学生支援事業のHP
は「ふるさと福井応援サイ
ト」で検索。（清兼千鶴）